

ドミニオン オブ クライスト 2023

《新しい希望》の光！

アリシア区会堂の多目的ホールにおける礼拝が守られて10か月後に、念願の移転がかないました。

今度は、バゴンパグアサ区です。バゴンパグアサとは『新しい希望』という意味です。多目的ホールでの10か月は、日曜礼拝と午後の数時間しか借りることができなかったため、教会の活動に制限がありましたが、ようやくパンデミック前の教会活動再開にこぎつけそうです。これこそまさに『新しい希望』の到来です。

10月に入ってから、大工仕事に秀でた兄弟を中心に、コツコツと改装工事に着手。第2日曜日、多目的ホールでの礼拝を最後として、礼拝後には完全移転を達成、第3日曜日、新天地での最初の礼拝を持つことができました。そして、第4日曜日、目標であった創立記念日を『新しい希望-バゴンパグアサ』の地においてお祝いすることができました！ハレルヤ！

アリシア区多目的ホールを退去するにあたり、区長さんが秘密の話をしてくれました。

アリシア区会堂は24時間常駐のスタッフがいるのですが、私たちが借りていた3階ホールでは以前から“幽霊出没問題”に悩まされていたとのこと。夜な夜な母親と小さな男の子の霊が出没して、スタッフを怖がらせていたという嘘のような真の話です。ところが私たち教会が借り始めたその日から『ピタッ』と現象がなくなったのだそうです。これを聞いたとき、私たちの行く先々で、私たちが意識しようとしまいと、神の豊かな恵みは溢れるのだなあ実感しました。どこに行っても、何をしても、神の恵みを伝えられる器として用いられたいものです。



多目的ホール最後の礼拝

《新天地での活動再開》

多目的ホールに移る前の教会の賃貸料は、20年以上据え置き、かつ相場の10分の1以下という奇跡の額だったわけですが、今回の新天地に関し、私たちには払えないということで昨年からの交渉のうえで断念し

た物件でした。ところが、オーナーが、5割引きで承諾してくれたのです。その物件は、階下のテナントの3倍の広さかつ額は3分の1以下というこれまた奇跡となりました。本当にびっくりです。ハレルヤ！

この新天地の近所にはハイスクールがあるのですが、パンデミック以前にやっていた『HeBrews - コーヒーの無料配布伝道』を再開してみようということになりました。学校ということもあり、まずは学校側の許可をもらわなければなりません。まず11月7日の午前の部と午後の部の入れ替え時間に、校門内においてできる許可をもらいました。

未成年の育ち盛りの学生たちということもあり、コーヒーではなく『麦芽飲料—ミロ』とクッキーの配布に変更しました。ドミニオンオリジナルバッジとトラクトも添えて。

パンデミック以前には、教会前の路傍配布だったのですが、今回は学校内、学生が対象という、かなりピンポイント的な活動としての再開です。当日は30人ほどの生徒さんたちが来てくれました。コツコツと辛抱強くやっていかないといけないなと痛感です。次に11月21日に許可が下り、ミロの配布伝道第二弾、小雨の中にもかかわらずおよそ20名の生徒さんたちが来てくれました。

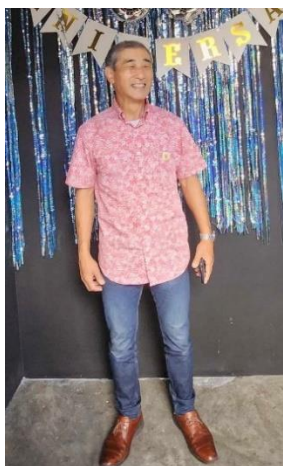
するとこの時、先生から呼び止められ、学校としてサポートできない案件がいくつか上がってきているので、教会として生徒たちと関わってもらえないかとのことでした。私たちにとっては願ってもないチャンスの到来です。



新天地での最初の礼拝



新天地での創立記念礼拝



東京から藤沢兄参戦！



コツコツと大工仕事



修理もなんのその



胃袋を掴む！



再開した HeBrews



CommuniTeaching



Prayer Night

高学年の1クラスが、地域奉仕の授業の一環として、貧困層への支援物資配布をしたいという事なのですが、アイデアはあるものの実現のための方法に苦慮していたようです。貧困層として区に登録されている50家族に焦点を合わせて、受け取りに来てもらうということになり、50家族抽出と場所提供が教会の役割になりました。生徒たち自身が1年をかけて支援物資の購入資金を貯めたらしく、限られた財源の中でのやりくりはかなり大変だったようです。教会として、日用品、米等を追加購入する事にもなりました。

折りしも、焼きそば店『はる』さんから、麺やソース等一式の献品があり、配布日には焼きそばのお持ち帰りパックを用意する事になり、75人前を自分たちで作って用意しました。

11月30日、50家族が教会に受け取りに来てくれました。当日、ただ配布するだけでなく、一番大事な救いのメッセージ、祈り、なによりも教会に足を運んでくれたという事へ、最大限のウェルカムをお伝えしました。生徒さんたちと一緒に一つのプロジェクトを達成できた喜び、突然の停電に見舞われて猛暑の中でのプログラムではありましたが、神様の愛が豊かに伝わったことを確信します。

お持ち帰り用の焼きそばが、思いがけない彩りを添え、皆が笑顔で教会を後にしました。

プロジェクト達成のお祝いに、残り物の焼きそばをみんなで分け合っていました。

まだ、100人前ほど焼きそばの麺が残っているため、次週、学校での再会を約束して閉会となりました。

若い力って素晴らしい！

00



支援物資配布の前、御言葉を聞く

渡す側も受け取る側もみんな笑顔

12月5日、彼らと約束した通り学校内での『ミロ』配布伝道にて焼きそばが再登場しました。

校長先生も、職員室の先生方もみなさん来て下さり、生徒さんたちだけでも長蛇の列、パンを水の上に投げているような感じかもしれませんが、辛抱強く続けていきたい活動の一つだと思います。

焼きそばのおいしい匂いにつられて、「これ焼きそばですよ？懐かしい匂いにつられて来てしまいました。一つ私にもください」と、流ちょうな日本語で話しかけてくれた生徒さんがいました。出会いとはおもしろいものだと思います。献品あってこそこの出会いであり、学校内でやることの許可を与えて下さった先生方に感謝、そしてなによりも全ての機会を与えて下さっている神様ありがとうございます！



焼きそばもミロも大人気！

《恒例のノチェブエナ》

12月24日、クリスマスイブの朝の礼拝は、なんと、教会に来たことのない子供20人とその保護者10人を招待しました。この国では、クリスマスとは一番イエス様の事を伝えやすい日です。子供にも大人にも楽しめるビデオとクリスマスメッセージを通して、救い主キリストの生誕について伝えることができました。私たちができることは、ひたすら種をまき続けることだけです。その種は、時が来て必ず芽が出ると信じます。メッセージの後は、みんなが楽しめるゲームとおいしいランチやギフトが用意されました。来てくれた皆さんありがとう！

その夜は、ドミニオン恒例の『ノチェブエナ-クリスマスイブのお祝い』です。

パンデミックで3年間でできなかった『ココアの無料配布』復活です。

100人分の熱いココアを作って、ドミニオンオリジナルバッジ、クッキー、トラクトと共に路傍伝道です。世界でも有名な、24時間365日眠らない町マニラです。道を行く人々、閉まらない店舗、ガードマンさん、ウーバーイーツや宅配の方々に配って、1人1人に語りました。決して無駄にならない活動の一つだと信じて続けます。

その後には、クリスマス特別礼拝があり、私たちのためにお生まれになったイエス様に感謝を捧げました。そしてお待ちかねのノチェブエナのお祝い。みんなが持ち寄ったごちそうの数々、楽しいゲーム、神の家族が集まるところには喜びがあふれます。

2023年最後の礼拝は、大晦日にも関わらず集まって下さった兄妹に感謝です。ドミニオン年末最後のランチも持ち寄りのごちそうで幕を閉じました。胃袋を掴む教会だなあとつくづく実感します。



クリスマスココア配布復活！



ノチェブエナの日と2023年最後の礼拝

《新しい始まり》

2024年度のテーマはイザヤ書62：10より

『通れ、通れ、城門を。この民の道を整え、盛り上げ、土を盛り上げ、大路を造れ。石を取り除いて国々の民の上に旗を揚げよ。』です。

この神の与えて下さった新天地において、今年こそ飛躍の年、成長の年、増え広がる年と、改めて願い求め、神の御業をこの目で見たいと切に祈ります。

今後とも、ドミニオンを皆さまのお祈りに加えていただきたいと思います。

共に主の器として前に進み続けていこうではありませんか！